

最上 二郎（もがみ じろう）（1931－2014）

【プロフィール】

1931（昭和6）年10月30日、福島県郡山市に生まれる。金透小学校、福島県立安積中学校（現・安積高等学校）、福島大学卒業。耶麻郡西会津町立奥川小学校弥生分校、岩瀬郡岩瀬村立白江小学校、須賀川市立第二小学校など福島県内の小学校教師を務めた。福島大学空手道部師範。大武館空手道場を経営。『まぼろしの大将』（1993年刊）で第10回北の子童文学特別賞受賞。『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）が第7回日本動物子童文学奨励賞を受賞し、第44回全国青少年読書感想文課題図書となった。福島の代表的な子童文学者として『福島県の民話』（1978年刊）や『先生のとっておきの話 福島編』（1983年年刊）にも作品が収録されている。日本子童文学者協会創立五十周年を記念して出版された『県別ふるさと童話館7・福島の童話』（1998年刊）の編集も手がけた。また、郷土の偉人を子どもに伝える『開国と安積良斎』（1986年刊）、『女医服部けさ』（1987年刊）といった作品を記し、『ハンセン病と女医服部けさ』（2004年刊）のような研究書も執筆している。『おーい山ん子』（2012年刊）で第17回三越左千夫少年詩賞を受賞するなど、詩人としても活躍した。2014（平成26）年10月3日、82歳で逝去。

【物語】

猟師、炭焼きなど、山の暮らしの中で自然の厳しさ、とりわけ野生動物と人との共存を描いた作品が多い。『マタギ少年記』（1962年刊）、『ギターひく猟師』（1968年刊）、『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）では、人と熊との闘いをとおして、自然の厳しさと向き合う人間の姿を描いている。最上氏の教育実践の記録『山ん子分校 奮闘記』（2013年刊）によると、1958（昭和33）年から1960（昭和35）年に教師として初めて赴任した弥生分校での暮らしが作品の源流となっていることがわかる。『まぼろしの大将』（1993年刊）では分校での生活、生徒と先生の交流が生き生きと描かれ、後書きでは、この物語の執筆は教え子たちと交わした「三十五年ぶりの約束」であったことが明かされている。晩年、最上氏自身が“子童文学創作のほとんどがここにあり、第二の故郷といえる思い出深い場所である”¹と綴っており、弥生分校での教師生活が創作活動の多くにつながっていた。

『ミナクローと公平じいさん』（1997年刊）のあとがきでは、“日本の自然を、野生の動物たちを、どうしたらいいのだろうかー。”と問い、山奥まで開発が進む今日への憂いの中で描かれた作品であることがわかる。その問いに答えるかのように、幼年童話『ひびけ！山のうた声』（2006年刊）は動物たちの視点で描かれ、“おなじいのち、ともに生きることじゃて”という和尚さんの説教で幕を閉じている。

【詩】

子どもたちの詩とともに詩人の作品を集めた『詩のランドセル 東北編5・6ねん』（1998年刊）に「白い涙」が、『詩のランドセル 東北編3・4ねん』（1998年刊）に「どうしようかな」が、収録されている。それぞれ男子生徒、女子生徒の心情を福島の言葉で綴った詩である。雑誌『日本子童文学 第60巻第1号』（2014年2月刊）には、改訂された「どうしようかな」が“教室の詩”として採録されている。“先生のお嫁さんになっちゃおうかなあ”と考えを巡らせる、微笑まし

い少女を描写した詩である。“みんなに 似顔絵もかいてくれる”、“おもしろいお話も いっぱいしてくれる” 生徒たちに慕われた最上氏の教師としての姿が描かれた作品でもある。

晩年の最上氏は、教師として生徒と過ごした日々により思いを馳せた作品に力を注いだ。『ものがたり詩 おーい山ん子』(2012年刊)は、50年前の初任地、弥生分校の“往時を何とか今によみがえらせてみよう”として執筆された。同書は、分校の実践記録『山ん子分校奮闘記』(2013年刊)、マタギ語り『最上二郎が語る おもしろ 山の狩人物語』(2014年刊)とともに、最上氏の第二のふるさとの「山がたり」三部作とされる。

2014年5月に西会津町の弥生集落で、教え子たちによる最上氏の出版祝いを兼ねた「第2回同村のつどい」が開催された。約半世紀ぶりの再会を果たしたことで、マタギ語りの続編を執筆する意欲を掻き立てられたことが、この出版祝いの様子などを記した連載エッセイ「雑草のごとく」に記されている。そこには、“平穏に暮らす貴重な生き物同士、うまく生きてくれ！命の共生・共存こそこの大自然への感謝ではないか”²という最上氏の力強いメッセージが遺されている。

この春、『ひびけ 山んころ』がらくだ出版より出版され、遺作となった。

最上二郎作品所蔵一覧(単行本)

初版年 ()年齢	書名	出版社	請求記号
1962年(30)	マタギ少年記	理論社	LA913.8/M/3
1968年(36)	ギターひく獵師 (毎日新聞少年少女シリーズ) ※共著	毎日新聞社	913/モジ
1978年(47)	福島県の民話 (県別ふるさとの民話 10) ※共著	借成社	388/ケ/7
1983年(51)	先生のとっておきの話 39 福島編 ※共著	ポプラ社	916/セ/39
1986年(54)	開国と安積良斎 いり豆と黒船と (ふくしま子供文庫)	歴史春秋社	913/モジ
1987年(55)	女医服部けさ 人、その友のために (ふくしま子供文庫)	歴史春秋社	289/ハ
1992年(60)	キツネさわぎで日が暮れた (草炎社ともだち文庫)	草炎社	913/モジ
1993年(61)	まぼしの大將 熊越分校物語	歴史春秋社	913/モジ
1997年(65)	ミナクローと公平ひいさん (草炎社ともだち文庫)	草炎社	913/モジ
1998年(66)	詩のランドセル 東北編 3・4 ねん ※共著	らくだ出版	911/シ
	詩のランドセル 東北編 5・6 ねん ※共著	らくだ出版	911/シ
2004年(73)	ハンセン病と女医服部けさ	歴史春秋社	L289/H21/6
2006年(75)	ひびけ！山のうた声(草炎社フレッシュぶんこ)	草炎社	913/モジ
2012年(80)	ものがたり詩 おーい山ん子	らくだ出版	911/モ
2013年(81)	山ん子分校 奮闘記	らくだ出版	L371.3/M1/1
2014年(82)	最上二郎が語る おもしろ 山の狩人物語	らくだ出版	L913.6/M36/1
2015年	ひびけ 山んころ	らくだ出版	LA913.8/M1/5

【参考文献】・『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館, 1993

・『街 こおりやま』街こおりやま社, NO. 249, 1996. 1

¹ 「雑草のごとく 11 飯豊連峰の前衛鏡山登山1」『街 こおりやま』街こおりやま社, No.475, 2014.11, p.50

² 「雑草のごとく 12 飯豊連峰の前衛鏡山登山2」『街 こおりやま』街こおりやま社, No.476, 2014.12, p.50

(児童資料チーム 鈴木 史穂)